

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第23号

マイ スカイ

1996年11月19日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

ここ最近、一^{いっ}気に寒くなりましたね。生徒のみなさんの中にも、風^{かぜ}邪をひいている人がかなり増えてきたようです。規則^{きそく}的な生活習慣を守って、まずは健康に気をつけるようにしましょう。健康は、何物^{なにもの}にも代^かえ難^{がた}いものですからね。



◎「部落問題学習」って……???「全体学習」って……???

全体学習で部落差別を解^{かい}消^{しょう}するための勉強をすることは多いのですが、全体学習＝部落問題学習というわけではありませんよね。それでは私たちは、全体学習からいったい何を学^{まな}んでるのでしょうか？また、何を学^{まな}んできたのでしょうか……？

7年前、板野中学校では、それまでの部落問題学習の中身を見直そうという動きが起きました。それまでの部落問題学習に対する取り組みは、ごくごく普通に教室で行われている形式のものでした。それでも部落問題の解決に前進していたのかもしれませんが、いくつかの問題点も浮^うかび上^あがってきたのです。それは、教師側^{なかに}に力^{ちから}量^{りょう}の差があるということと、それによって各学級の部落問題解決に取り組んでいく意識にも差ができてしまうということでした。その教師の力量^{ちから}の差を埋^うめ、また学級ごとにバラバラになっている生徒のみなさんの力を集め、この問題を解決するため、学年が一丸^{いちがん}となって本気で取り組んでいこうという発想^{はっそう}のもと、全体学習が始まったのです。それから数年間、全体学習を通してさまざまな思いが噴^ふき出^だし、生徒同士が、そして生徒と教師がつながり、共に学習を積み重ねることができました。

しかしここきて、全体学習のあり方が、その必要性が、問われています。いつも言われてきたことですが、もちろん「全体学習がベストの方法」というわけではありません。始まった当初^{とうしよ}は、それまでの取り組み方を打ち破^うるための一つの手段^{しゅだん}だったわけです。ですから、新たな良い方法があればどんどん取り入れればいいし、改善^{かいぜん}すべきところがあれば改^{あらた}めばいいわけです。それでまた新たな問題点が出てくれば、それをクリアするように

創意工夫そういくふうすればいいのだと思うのです。何がどう変わっても、「差別をなくしたい！」という熱い思いが原点げんてんであり、それに向かって進んでいけばいいわけですから！！

それでは、部落問題学習ではいったい何が得られるのでしょうか？

私が思うに、部落問題学習とは、その学習を通して、自分を見つめさせてくれるものだと思うのです。今の自分を見つめ、今の家族を見つめ、また自分の過去に気づき、家族の過去に気づき、そのなかで自分のイヤなドロドロした部分を発見したり、人の優しさに気づいたり……つまり人間というものを学んでいく場のように思うのです。その最さい中ちゆうに、迷めい路ろに迷まよい込こむこともあるでしょう。そして今まさに、その中にいる人もいるでしょう。

つい最近も、高3になる卒業生から手紙が届きました。中学校でいるときも決意けつぎしたように、高校でもできる限り部落問題学習に取り組んでいこうとした生徒でした。しかし、私自身が「大事なこと」を教えられていなかったため、高校に入ってしばらくは頑張がんばれていましたが、だんだん尻すばみになってしまいました。「今はのんきに暮らし、部落問題解決については何もしていない」と書いてました。しかし、就しゅう職しよくが決まるまでもいろいろと悩なやんだし、結婚のコトについてはやっぱり頭のどこかで引っかかっているそうです。後悔しても仕方のないことですが、「あの大事なことを教えられてたら……」と今でも思っています。

大事なことは、すごく簡単かんたんなことなのですが、『まず隣となりの人と仲良くする』ということなのです。確かに高校へ行ったり社会へ出れば、中学校でいたときほど部落問題について話し合われないかもしれませんが。でも、この問題が大事な問題だとわかってるみなさんは、「は、は、は、はなさなければ……」と必要以上に意識かたし、肩かたに力りきを入れて、力りきで話そうとしてしまいがちになるようです。でも、それでは余計よけいに自分を苦しめてしまい、自みづから地雷じらいを踏ふんでしまうことになるかもしれません。そういうのじゃなくって、もっと自然に、普通に接していく中で、これらの問題が出たときに、やわらかく自分の考えを話せるようにした方が良く思うのです。それが人の豊ゆたかさや懐ふところの深さとしてあらわれるのではないと思うのです。

学習会のみなさんにすれば、「できることならこの問題にふれずに過ごせたら……」と思ってる人もいるかもしれません。そしてまた実際じっさいに、ふれずに生きていけるのかもしれませんが。でも、ふれられたときに、自分の考えをきちんと述べられる自分であればと思います。また、部落外ののみなさんにしてみれば、やはり自分のこととして考えにくく、逃のがれようと思えば逃のがれられる問題でもあります。ですから、この問題にふれずに過ごすことも

の大腸菌^{だいちょうきん}という代物^{しろもの}、みなさんの手に常にへばりついているのを知っていますか？

どこからへばりつくのかというと、一番にあげられるのが、お金、そして、ドアの手すり^{ひじ}なのです。私が昔働いていたファーストフード店では、30分おきに1分間、肘^{ひじ}までもみ洗いすることを義務づけられていました。でないと、すぐに繁殖^{はんしよく}してしまうんだそうです。しかも暑い夏なんかはその繁殖^{はんしよく}力が異常に速いそうです。では冬は大丈夫かという^{はんしよく}と、そうでもありません。暖房設備^{だんぼうせつび}が整ってきた現在では、冬でも充分繁殖^{はんしよく}できるそうです。みなさんも、「たかが手洗いくらい……」と手洗いをバカにすることなく、保健衛生^{ほけんえいせい}について十分に注意してください。

ところで、このO-157が新たな差別を生み出しているようです。ニュースや新聞でご存じの人もいると思いますが、ひどいものです。あらためて、差別をなくすという考えが、人間一人ひとりに必要だと感じました。自分の周りに差別を感じたときでは、遅いのかも^{かん}しれません。常に自分の差別意識を見つめ、「イヤだ～、なくしたい～」という姿勢でいることが大切なのかも^{かん}しれませんね。あつ、それと、その事についての正しい情報を通して、周りの人と話し合うことも大切です。

とりあえずは、この差別の実態がどんなものなのか、少し知っておいてください。

「お前はO157だ」「ばい菌^{きん}」～回復^{かいふく}後、いじめ深刻^{しんこく}～

「ばい菌^{きん}、ばい菌^{きん}」「お前はO157だ」。病原性大腸菌^{びょうげんせいだいちょうきん}O157をきっかけとしたいじめ^{いじめ}や解雇^{かいこ}をめぐる共同通信社^{きょうどうつうしんしゃ}が十八日まとめた全国調査で、元気な子供がO157に感染^{かんせん}し回復^{かいふく}した子供にあだ名^なを付けていじめるなど、深刻な社会問題を引き起こしていることがあらためて浮き彫り^{うきぼ}になった。

いじめは集団食中毒^{しゅうだんしょくちゅうどく}があった堺市^{さかい}を含む大阪府が最も多いが、岐阜、京都、和歌山、鳥取、岡山、福岡、熊本の各府県でも起きている。回復^{かいふく}した子供を「ばい菌^{きん}」とはやしていじめるほか、「感染^{かんせん}した子供が近所へ買い物に行き『O157だ』とからかわれ、泣いて帰ってきた」（鳥取）、「やっと退院^{たいいん}してきた子供が喜んで外に遊びに出たら他の子がみんな逃げてしまった」（大阪）など。

いじめは子供たちだけの問題ではなく、大人の世界にその温床^{おんしょう}があるようだ。「(感染者^{かんじや}が出た会社に勤めていたため)妻の両親^{ふつしやう}から別居を強要^{きやうよう}された」（京都）、「親が自分の子供に『感染^{かんせん}した子供と遊ぶな』と注意している」（大阪）、「駅で『(O157の患者^{かんじや}が出た)町民はあっちへ行け』と怒鳴^{どな}られた」（鳥取）、「感染^{かんせん}した子供を持つ親が近所の人から『隔離^{かくり}しなくていいのか』と言われた」（熊本）なども報告されている。

O-157のを知ることで、「差別をする」ことにつなげるのではなく、「どうすればいいのか」を知るべきなのだと思います。そうすることが、自分自身を大切にすることにつながるのだと思います。

部落差別も同じですね。それを知ることで「差別をする」のではなく、「どうすればいいのか」を身につけなければいけないのだと思います。そのことが、やはり自分を大切にすることにつながるのだと思います。

みなさんはどう思いますか？



◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

近ごろ板中生の生活態度が気になります。

朝や授業への遅刻、自転車による登下校の仕方、学校に持ってくる不要品^{ふようひん}、いい加減^{かげん}にしている服装、etc……。おまけに注意を受けても、あまり悪いと思ってないような返事が返ってきます。悪いとは思っているのかもしれませんが、素直^{すなお}に返せないようです。「どうでもいいこと」「本人個人の問題」と言ってしまうえばそうなのかもしれませんが、そうしてしまう背景^{はいけい}(理由)があるのかもしれませんが、そのままにしておくわけにはいきません。

これからいずれ社会に出ていくことを思えば、今、やはり身につけておかなければならない「心」というものがあるはずで、反抗期^{はんこうき}なのかもしれません。でも、それでも片づけることはできません。やはり、人間として成長していくうえで、悪いことは悪いときちんと自分を正していく力は必要ではないでしょうか。今一度、生徒のみなさんも、私たち教師も、見直していきたいと思います。



11月21日(木) 3年第5回全体学習3年D組

24日(日) 板野中学校保護者参観人権集会(8:50～：板中体育館)

26日(火) 『MY SKY 第24号』発行日

29日(金)～2日(月) 全国同和教育研究大会(長崎県内)

12月1日(日)～7日(土) 板野町解放文化展

7日(土) 部落問題講演会(意見発表、講演「^{おだに}勤^れま^か」江嶋修作)(1:30～：眠^ねセンター)

15日(日) 南公会堂祭り(南公会堂)



※ 「MY SKY」に関する感想や意見を広く求めています。取り上げてほしいことや日頃疑問に思っていることなど、何でも結構です。ぜひとも吉成までお便りください！